



日本子宮内膜症啓発会議

日本子宮内膜症啓発会議
子宮内膜症啓発とQOL向上のための
女性ジャーナリスト会議
2013年7月19日
報告書

子宮内膜症啓発とQOL向上のための 女性ジャーナリスト会議 概要

- 日時 2013年 7月19日(金) 18時30分～
- 会場 朝日エル (東京都中央区築地1-9-4 ちとせビル)
- 出席者 女性ジャーナリスト 11名

□ プログラム

1. 子宮内膜症について

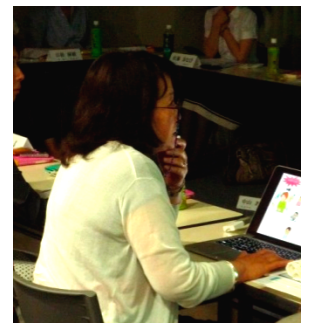
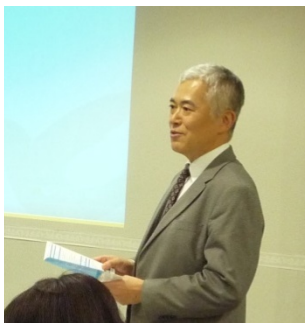
- 司会: 百枝幹雄 実行委員長(聖路加国際病院女性総合診療部 部長)
 講師: 甲賀かをり 副実行委員長(東京大学医学部産婦人科 講師)
 北出真理 実行委員(順天堂大学医学部大学院医学研究科産婦人科学 准教授)
 稲村つなみ(Pink-Pear代表)

講演者	内容
甲賀副実行委員長	1 子宮内膜症とは？
	2 子宮内膜症のサイン
	3 内膜症患者増加と日本の女性の背景
	4 子宮内膜症が女性に及ぼす悪影響
北出実行委員	5 治療の種類と特徴
	6 ピルへの誤解と未病の意義
子宮内膜症経験者	7 経験・体験談

2. フリーディスカッション

- ・質疑応答
- ・どのようにすれば婦人科受診が増えるか(どのような壁が婦人科受診を妨げているか)
- ・読者・視聴者の方のニーズが高い情報
- ・読者・視聴者の方が子宮内膜症についての重要性を理解し、婦人科受診行動に結び付くための話の切り口など

3. まとめ





＜媒体が子宮内膜症を取り上げるためには＞

- 信頼できるドクターのリストやJECIEお勧め病院リストがあると、女性誌の編集者も記事を作りやすく、読者の説得もしやすい。
- 女性ファッション誌だと一度子宮内膜症や健康について取り上げると、同じ媒体で次すぐには取り上げにくい。
- 編集部やライターは多忙のため、魅力的な講師や内容でないと、スケジュールを調整してまでメディアセミナー行こうとは思わない。
- JECIEには著名な先生がそろっているため、セミナーを開催する場合は講師の名前を前面に出して告知をした方が
良い。
- セミナーのタイトルで取材が通る・通らないにもつながっている。そのためタイトルの付け方は重要。
- 衝撃的なタイトルが付けられると、メディアも取材にも行きやすい。
- キャラバンなどで媒体社に訪れて、産婦人科体験等ができれば、時間のない編集者も参加してみようと思うのではないか。
- 編集者やライターが話題などを自分事としてとらえやすい例：
化粧品会社のメディア向けイベントを開催する場合、高級クリーム等を1媒体につき1つではなく、一人に1つも
らったとき。メディア向けイベントで来場者につき1つ高級クリームなど何かプレゼントがもらえるというたい文句が
あるだけで、ライターだけでなく編集者も一緒に来ることさえもある。1媒体につき1つだと、みんなのモノになってし
まい、自分事としてとらえられない。
- メディアは副反応について強調することは得意であるため、副反応の記載には注意が必要。
- 副効用としてよいことばかり記載しても、読者や視聴者に疑わしく思われる心配もある。

＜若い人が興味を持って子宮内膜症についての情報を得てもらうためには＞

- 書店では健康情報雑誌と、美容や女性ファッション誌などの女性誌が分かれて置いてあるのが一般的である。若い女性は健康情報雑誌のコーナーにも足を運ばず、女性誌を読む人が多いため、健康情報雑誌で子宮内膜症について特集を組んだり、いくらアピールしても、若い一般の女性は読まないため、情報が届かない。
- 記事を読んでほしい人と、実際に読んでくれる人が一致していない。
- 読んでくれる人は実際に子宮内膜症になってしまっている人やすでに重症な方が多い。
- 女性誌のコーナーに置かれている雑誌の中で、もう少し子宮内膜症のこと、月経困難症の治療の重要性についてアピールしていく必要がある。
- 女性誌でブックインのように保存版として取っておけるようにし、目についたり、取っておきたくなるものをつくることで、情報が伝わるのではないか。
- 雑誌のWEBページの中で子宮内膜症を取り上げてもらうことは効果があるのではないか。
- 普段産婦人科に行かない人は健康診断の際に婦人科と接点を持つチャンスがある。健康診断のときや健康診断の結果が戻ってくるタイミングは自分のからだに関心が高まるタイミングでもあり、その際に啓発冊子が読めれば、関心を持って見れるのではないか。
- 手術の写真などは視覚的インパクトが大きかった。
- 月経のときは実はお腹は血だらけ(経血の逆流)など衝撃的なタイトルを使うことで、読者や視聴者の興味を引き付けることができるのではないか。
- ツイッターからの情報拡大の効果は大きい。芸能人や著名人などにつぶやいてもらうだけで、そこから大きく広がるのではないか。
- 高校生まではタレントに興味が大きいが、大学生になると急に興味がなくなる。大学生は読者モデルやミスキャンパスの方などにつぶやいていただくと効果があるのではないか。

<媒体で取り上げる際の話題の切り口や見せ方をどうすればよいか>

- ・ 今女性誌では「女性の不調対策」は取り上げられやすいため、不調の一つとして月経痛を取り上げてはどうか。
- ・ 最近不妊の取材が多いため、(将来の)不妊と子宮内膜症は社内で提案しやすく、読者も興味を持つと思う。
(NHK)
- ・ 「月経痛が病気である」という切り口で啓発することも良いのではないかな。
- ・ 「ライフスタイル」と絡めて子宮内膜症を啓発するのも良いのではないかな。「社会問題としての子宮内膜症」として、疫学、治療法、早期発見の重要性などを産婦人科の先生に解説してもらい、社会として、女性の子宮内膜症の早期発見・早期治療を促すことの有益性を伝えたい。(日本経済新聞社)
- ・ 「キャリアブランと子宮内膜症」を著名人の体験談としてリアルな声を伝えたと興味を持つのではないかな。
- ・ 子宮内膜症を予防できるのであれば、その情報も一緒に伝えたい。
- ・ 「将来赤ちゃんを持つためにすべきこと」として、婦人科受診を促すことは効果があるのではないかな。
- ・ 健康診断書を交換するカップルはわずかではあるが、結婚準備と子宮内膜症という切り口で情報を伝え、不妊の可能性も含め、婦人科検診を勧めるのが良いのではないかな。
- ・ 「女性として知らないでは済まされない子宮内膜症」をきっかけに、自分のからだに目を向けるという切り口も良いのではないかな。
- ・ 「早期発見・治療の重要性」
- ・ いかに子宮内膜症を「自分の事」と思ってもらうかが重要。
- ・ 未婚 避妊希望、既婚 妊娠希望、妊娠中など、ターゲットが置かれている立場によってアプローチを変えることで自分の事になりやすいのではないかな。
- ・ 「子宮内膜症とは？」や「〇人に1人が子宮内膜症」と言う切り口よりも、「ここに集まっている人の中でもう誰かがなっている。」など自分のいる環境の中で誰かが関係している可能性があるという伝え方が、伝わりやすく、自分事のように捉えられるのではないかな。
- ・ 今ピルが注目されている。
- ・ ピルのメリットとして避妊は今の時代にはあまり効果がないのではないかな。
- ・ 「ピルを服用している人は肌がきれい、月経前のむくみがなくなる」などというピルのよい面を若い人に伝えると効果があるのではないかな。
- ・ 副効用として月経の周期調整ができることにメリットを感じるのではないかな。月経の周期調整について知っている人は意外に少ない。
- ・ 大学などで子宮内膜症経験者に話をしてもらい、産婦人科受診の重要性を話してもらうことで、心に響き、産婦人科受診につながるのではないかな。
- ・ ピンクリボン運動等、既に規模の大きい運動やイベントの中で啓発をすればよいのではないかな。
- ・ 娘本人が気がつかないこともあると思う。そのため母親へのアプローチし、気づいてもらえるように啓発することも良いのでは。
- ・ エイジング世代の方は健康系・医学系の情報番組をととてもよく見るため、年齢の高い方にはそのようなTV番組で取り上げてもらうのが良いのではないかな。

<産婦人科への受診行動に結びつけるためには>

- ・ 子宮内膜症がどのようなものかについて取り上げるだけでは産婦人科への受診行動につながらない。どこに行けばよいのかまでサポートし、情報提供することが重要。
- ・ 月経痛はあるにもかかわらず、「自分は健康である」という理解を訂正する必要がある。
- ・ 生理日予測アプリの中で生理期間や月経痛の有無や出血量などを入力し、ある項目を満たすと産婦人科受診を促すなどの警告が出るとよい。
- ・ 「恥ずかしいから受診したくない」という気持ちを、「受診の必要性」が上回る必要がある。
- ・ 企業も交えて就業女性への受診を促すには、早期発見・早期治療が経済的に負担が軽いことを数字で出すことが重要。
- ・ 経済だけでは測れないこと、QOLが高まる、PMSが緩和されて仕事も円滑に行えるなどの効果のアピールも重要。
- ・ 婦人科検診の重要性がわかるようになれば、婦人科検診を取り入れている・力を入れている企業は転職する側からの評価が高まることもある。
- ・ パートナーが女性に産婦人科受診を勧めれば、産婦人科受診のきっかけになるのではないか。

<非受診者について>

- ・ 産婦人科を受診したくない人は、どんなにすすめても受診しない理由をつくって受診しない。
- ・ 今子どもが欲しくないからという理由で産婦人科を受診しない人もいるが、今は欲しくなくても今後欲しくなるかもしれない。欲しくなったときに子どもが産む準備ができている子宮でなければいけないことも伝える必要がある。
- ・ 時間がないことを理由に産婦人科を受診しない人もいるが、趣味の時間は調整して取っていることも事実。
- ・ 若い女性はファッション、グルメなど楽しいことを最優先事項としている。絶対にやらなくても良いと思っている・お金がかかる・時間がかかる・恥ずかしい産婦人科受診は優先項目から外れてしまう。
- ・ 費用がどのくらいかかるのかがわかると安心して受診できるのではないか。
- ・ 脱毛のように金額が安いと行ってみようかと思うし、友達と行ってみようと思うのではないか。
- ・ 病気については何も知らなくても、あの芸能人や著名人がなった病気ということで、病気について知った気になってしまっており、重要なことは何も知らないのではないか。
- ・ インターネットが普及した今、病気について検索し、自分で子宮内膜症ではないと自分で勝手に判断してしまう人もいる。
- ・ 結果を知り、病気が見つかるのが怖いのではないか。

<若い人の傾向>

- ・ 若い人はテレビを見ない。
- ・ 働く若い人はインターネットもあまりやらない。
- ・ 若い人は芸能情報が好きで、よく見ている。
- ・ 性交渉に対してアクティブだと思われる心配があるため、避妊のためにピルを服用しているとは知られたくない。
- ・ 若い人は月経痛があっても自分のことを健康だと思っており、産婦人科を受診する必要性がないと思っている。
(月経痛＝病気かもしれないということは認識がない)
- ・ 高校生でも妊娠と絡めて月経や子宮内膜症について話すと、真剣に話を聞く。
- ・ 海外では自分のからだを理解していないことは格好の悪いことだと認識している。

<産婦人科について>

- ・産婦人科に対して親近感がない。
- ・産婦人科は妊娠している女性の行くところというイメージが大きい。
- ・不妊や子宮の病気などで悩む人が妊娠している幸せそうな女性と同じ病院に行くのは、とても辛いことではないか。
- ・産科と婦人科を分けた方がよいのではないか。
- ・病院で経過観察と言われると、自分はすぐに治療しなくても良いと安心してしまい、継続的な検診を受けずに悪化してしまうこともあるのではないか。
- ・男性医師だと行きづらい人もいるのではないか。
- ・産婦人科を受診することになっても、産婦人科医が不親切であったり、相性が合わなかったりすると、それがきっかけで産婦人科を嫌いになってしまう人もいる。とてもデリケートな病院なので、産婦人科医や看護師さんにも思っている以上の気遣いが求められている。
- ・妊娠後、子宮内膜症になる方もいることを考えると、妊娠・出産のタイミングでも産婦人科医から月経痛や子宮内膜症についての情報提供をしてくれるとよいのではないか。

<その他質問等>

- ・経血の逆流は90%の方がなっているのに対し、子宮内膜症になる人と、ならない人がいる。子宮内膜症になりやすい人、なりにくい人の特長があれば教えてほしい。生活習慣などで予防できる方法があれば、教えてほしい。
- ・子宮内膜症関連の薬剤を取り扱っている製薬メーカーや、手術器具などを扱う医療機器メーカーは子宮内膜症の啓発に関してどのようなスタンスでいるのか。
- ・チョコレート嚢胞のがん化について詳しく知りたい。
- ・子宮内膜症を経験した、経験している人が子宮内膜症について伝えたいことを知りたい。
- ・子宮内膜症のどの段階で病院に行ったら、将来の不妊への影響が小さくなるのか。不妊への影響と子宮内膜症の重症度の関係を知りたい。

<その他>

- ・そもそもジャーナリストが月経や月経痛、子宮内膜症について正しいことを知らない。誤った知識を持っている。
- ・会社・学校で義務化すればよいのではないか。
- ・企業に、産婦人科の先生が一週間に1回でも来てくれれば、働く女性の受診率も上がるのではないか。
- ・企業と連携して、女性検診休暇制度などがあるので、そのタイミングで産婦人科受診を促す働きを徹底したらよいのではないか。

<まとめ>

■メディアに取り上げてもらう為に

- ・ ジャーナリストが月経、月経痛、子宮内膜症について正しい知識を持ち
- ・ 信頼できるドクターリストやJECIEおすすめの病院リストがあると、雑誌に掲載しやすい。(複数意見あり)
- ・ 魅力的な講師や、魅力的な内容、興味がそそられるセミナータイトルだと、媒体社も行きたいと思える。また衝撃的なタイトルによって、読者・視聴者にも伝えたいと思うし、読者・視聴者も興味を持つ。
- ・ 不調や不妊という切り口は、メディアでも取り上げやすい。(複数意見あり)
- ・ 女性ファッション誌では、子宮内膜症や健康について一度取り上げると、その後すぐには取り上げにくい。(複数意見あり)

■正しい情報を「自分事」として理解してもらうことが重要

- ・ 正常な月経とはどのようなものなのか、正しく理解してもらう必要がある。また自分が正常から外れた月経だったときに、気がつけることも重要。
- ・ いかに「自分事」としてとらえるかが重要。自分への健康意識が高まっている健康診断の受診時・結果受取時での啓発、「自分事」としてとらえられるような表現を用いて啓発することが重要。(複数意見あり)
- ・ 産婦人科受診の啓発して受診を促すだけでなく、どこに行けば良いのか、費用はどのくらいか、病気が見つかって怖がることはないという安心感など、トータルでの情報提供が重要。(複数意見あり)

■産婦人科をより身近な存在、気軽に相談できる存在に

- ・ 産婦人科に対するイメージ(妊娠している女性の行くところ、妊娠していない自分にとっては無縁なところ)というイメージを訂正する必要がある。(複数意見あり)
- ・ とてもデリケートな病院である為、産婦人科医や看護師さん等への心遣いが今後も求められていく。